

ダイヤモンドOA誌出版 のコストとスキル

2022年11月14日 図書館総合展フォーラム
「多様化するOAの実現手段とその評価」

設樂成実（京都大学東南アジア地域研究研究所）

自己紹介

2011年 研究員として英文誌の立ち上げ準備に参加

2012年～ 助教・編集室長として機関誌『東南アジア研究』、*Southeast Asian Studies*のマネージング・エディターを担当

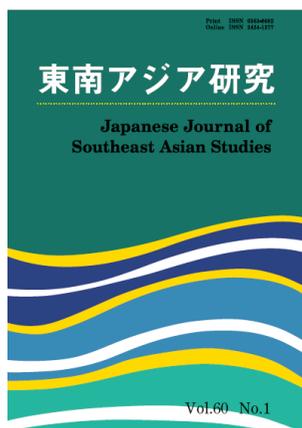
「ブックトーク・オン・アジア」（ポッドキャスト）、
「CSEASクラシックス」（創文社による絶版本の電子化・公開）、
『初学者のための東南アジア研究』（OA教科書）の刊行など・・・いろいろ裏方担当中

京都大学附属図書館研究開発室・室員

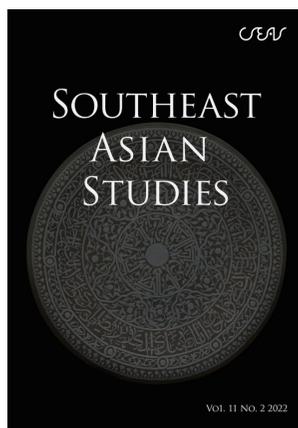
国立国会図書館関西館・非常勤調査員

DOAJ Ambassador

ジャーナルの紹介



『東南アジア研究』
和文誌



Southeast Asian Studies
英文誌

- 査読誌（ダブルブラインド・レビュー）
- 外部投稿OK
- 投稿料、掲載料不要(研究所の予算で出版)
- 即時オープンアクセス+プリント版（無料配布）。ただしライセンスが未設定のため厳密にはフリーアクセス
- 著作権は研究所がもつ
- ウェブサイト、機関リポジトリ、J-STAGEで公開中

ジャーナルの変遷

1963年、和英混載誌として創刊

Scopus収録

和文誌として再編

EBSCO収録

販売終了 J-STAGE収録

エンバゴ撤廃

DOI導入

東南アジア
研究

2012

2013

2014

2015

2016

2017

2018

2019

2020

2021

2022

*Southeast
Asian
Studies*

2012

2013

2014

2015

2016

2017

2018

2019

2020

2021

2022

英文誌として創刊

ProQuest収録

Scopus収録

オンライン投稿
システム導入

ESCI収録

ORCID掲載開始

J-STAGEコンサルティング

機関リポジトリでの公開

EBSCO収録

J-STAGE収録

DOI導入

ダイヤモンドOA出版のコスト

編集・刊行のプロセス

	和文誌	英文誌
受付・査読	投稿受付 査読 査読依頼、結果のとりまとめ、送付	投稿受付 査読 査読依頼、結果のとりまとめ、送付
編集	原稿整理 英文校閲（アブストラクトのみ） 校正 引用文献のファクトチェック 引用文献をガイドラインに沿って整形	原稿整理（ORCIDの挿入） 英文校閲 校正 引用文献のファクトチェック 引用文献へDOIの挿入 引用文献をガイドラインに沿って整形
組版・印刷・公開	組版、著者校正 印刷、製本 J-STAGEへのデータ掲載（PDF） ウェブサイトで公開（PDF）	組版、著者校正 印刷、製本 J-STAGEへのデータ掲載 ウェブサイトで公開(PDF)
広報・登録	ML回覧、SNS発信 プリント版発送 機関リポジトリ、アグリゲーターへデータ送付	ML回覧、SNS発信 プリント版発送 機関リポジトリ、アグリゲーターへデータ送付 HTML版の作成と公開（ウェブサイトのみ）

* 黄色部分は外注

編集・刊行のコスト

和文誌

英文誌

人件費（常勤×1名、非常勤×2名）

人件費（常勤×1名、非常勤×2名）

英文校閲費（アブストラクトのみ）
組版（InDesign）・印刷費

英文校閲費
組版（InDesign）・印刷費

ウェブサイトのサーバー、ドメイン使用料、管理費
ウェブサイト公開作業費

ウェブサイトのサーバー、ドメイン使用料、管理費
ウェブサイト公開作業費
ウェブサイトSEO対策費

J-STAGE公開作業費

J-STAGE公開作業費

発送費
ウェブサイトでの公開費（PDFのみ）

発送費
HTML作成、ウェブサイトでの公開費（PDF, HTML）
国際会議などでの広報活動費
電子投稿システム使用料（J-STAGE経由で安価で使用）
剽窃ツール（京都大学経由で無料で使用）
* 査読登録サービスの利用を検討中

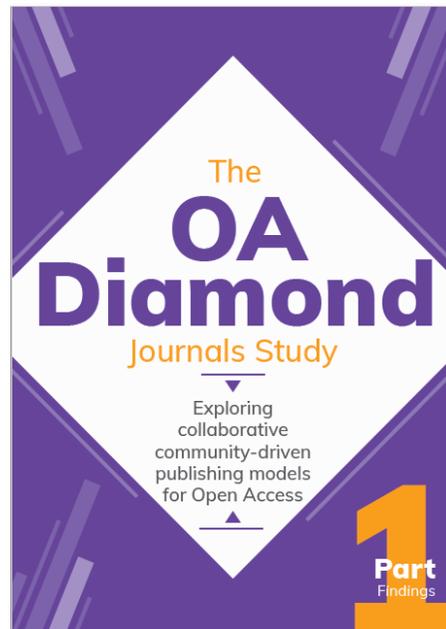
* 黄色部分は外注。

* 人件費には、著者との事務的なやり取り、入稿前の原稿整理、校正、J-STAGEやウェブサイトの確認作業などが含まれる。

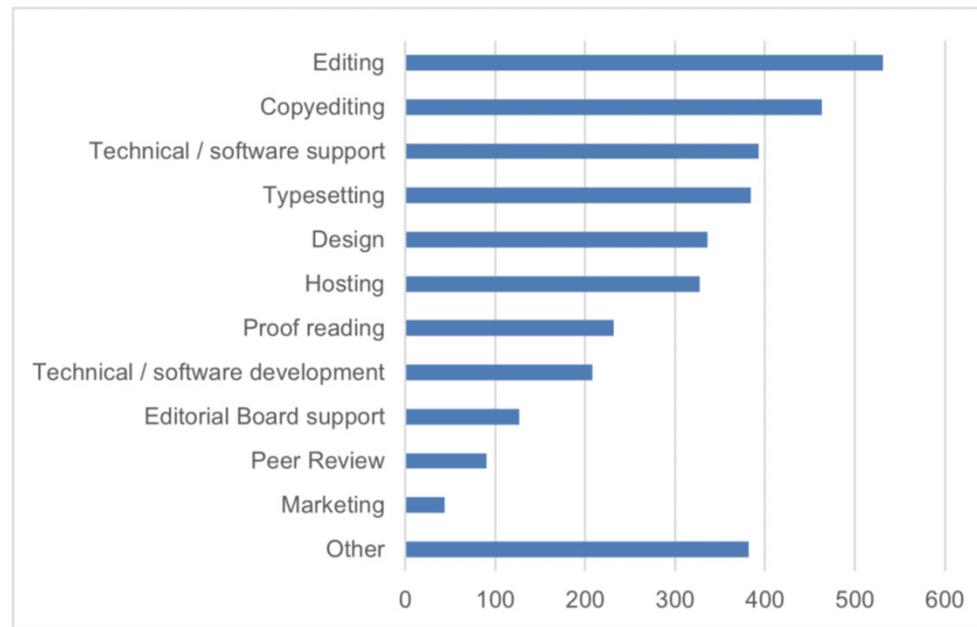
コストに関する調査結果

(The OA Diamond Journals Study, Section 4 (2021)より)

<https://doi.org/10.5281/zenodo.4558704>



*本調査に関しては下條 (2022) の解説が詳しい



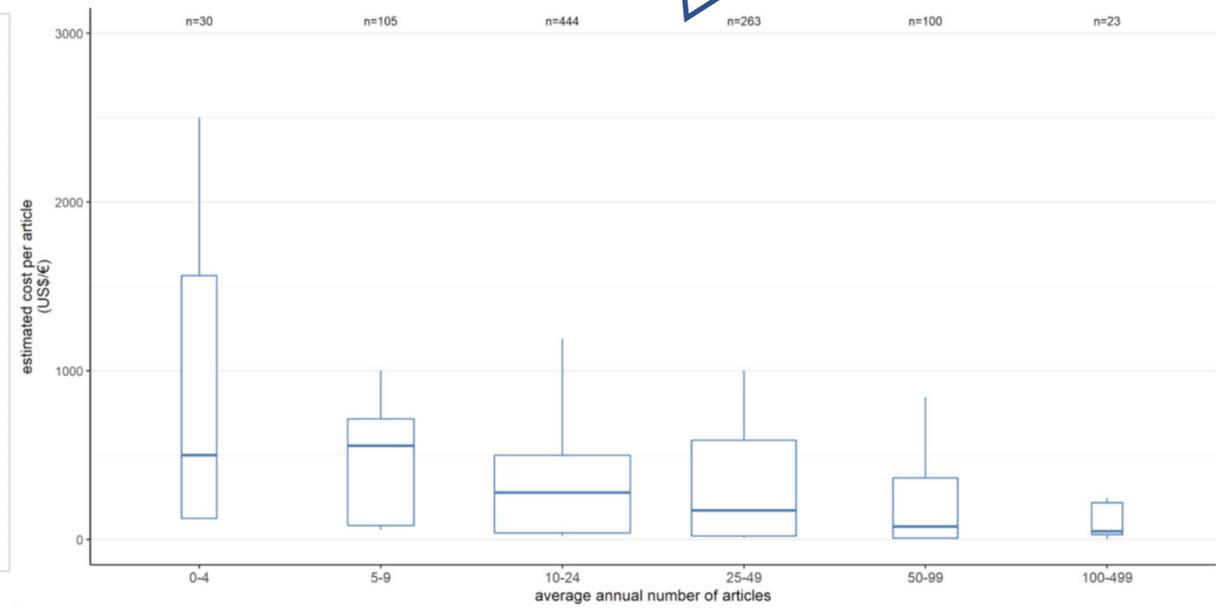
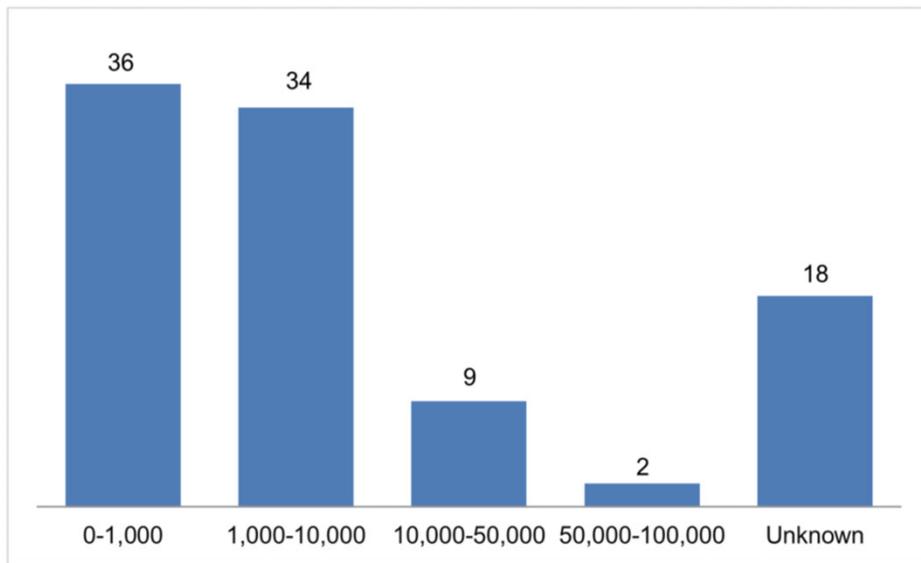
雑誌別三大支出・支払額 (n=1,347) (Proudman 2021, Fig.7)

コストに関する調査結果

(The OA Diamond Journals Study, Section 4 (2021)より)

<https://doi.org/10.5281/zenodo.4558704>

中央値は、208 ドル/ユーロ。
雑誌の規模に応じて減少(p.112)



編集・制作に支払った年間金額 (単位：ドル/ユーロ
運用コスト%) ($n=1,388$)
(Proudman 2021, Fig.4)

ダイヤモンドOA誌の推定論文単価 ジャーナルサイズによる比較
(Proudman 2021, Fig.5)

他の調査結果との比較

	質の高い雑誌		中程度の雑誌	
	購読者負担	著者負担	購読者負担	著者負担
固定費用	\$1,650 (183,150)	\$1,850 (205,350)	\$825 (91,575)	\$925 (102,675)
可変費用	1,100 (122,100)	100 (11,100)	600 (66,600)	100 (11,100)
総費用	2,750 (305,250)	1,950 (216,450)	1,425 (158,175)	1,025 (113,775)

電子出版を基本とする1論文あたりのおよその出版費用
 (芳鐘 2004, 図1より転載 [国立国会図書館ウェブサイトより](http://current.ndl.go.jp/ca1543)
<http://current.ndl.go.jp/ca1543>)

ダイヤモンドOAの方がコストは低い
 ただし、質によってコストに幅がある点に
 留意すべき

ウェルカム財団の報告書『科学研究出版の費用とビジネスモデル』(2004)の要点

■固定費用: 論文の選択・査読, 校正, 組版などに関わる編集費用

■可変費用: 用紙代, 流通, 販売, マーケティングなどに関わる費用, その他の間接費

■「質の高い雑誌」は採択率が低く, 質の高い論文が載る雑誌を

「中程度の雑誌」は採択率が高く, 中程度の論文が載る雑誌を指す。

■電子ジャーナルの場合, 用紙代や従来の流通費用の代わりに, 電子システムの維持費用がかかるが, 通常, 印刷媒体の雑誌より若干安価である。

(芳鐘 2004, p.14)

他の調査結果との比較

リジェクト率 50%の従来型査読制ジャーナル、制作業務を市場価格でアウトソーシングし、すべての編集業務を内部スタッフが行う場合

■論文当たりのコスト

年間 100 本の論文を発行するジャーナルで 643 ドル、
年間 1,000 本の論文を発行するジャーナルで 565 ドル と推定

■直接費用（コピー編集，フォーマット，Crossref DOI など）： 267 ドル

■編集スタッフ：290 ドル

■間接費用（プラットフォームホスティング，アーカイブ，Crossref メンバーシップなど）： 8.70 ～ 87 ドル

(Grossmann A and Brembs B. 2021 cited in Proudman 2021, p. 112)

ダイヤモンドOAの方がコストが低い

ただし、ダイヤモンドOAではボランティアな労働に強く依存しているため、総コストの一部が見えないことに注意する必要がある

(Bosman et al. 2021, p. 112-113)

確かにダイヤモンドOAは、コストの抑制の可能性が高そう！

しかし、

掲載論文の質をどこまで高めるか、
著者や読者にどこまでのサービスを提供するか、
対価の支払われない労働にどの程度まで依存するか、などによってコストは変わる

こうした点は、ジャーナルの評価や持続可能性にもつながる点であり、
コスト抑制とのバランスが重要だろう

ダイヤモンドOA出版に求められるスキル

運営

- 査読の運営
- 期日通りの刊行に向けたスケジュール管理
- 予算の獲得と管理

編集

- 編集、校正に必要な基礎知識
- 著作権、ライセンスなど知財に関する基礎知識
- 文献のファクトチェックに必要な情報収集力

動向調査

- 学術情報流通に関する知識のアップデート
- 出版、査読をめぐる新しい技術に関する情報収集と取り入れるべき技術の取捨選択

広報と分析

- 広報活動（ML、SNS、会議でのブースの設置など）
- アクセス数、投稿数、被引用数などのモニタリングと分析

求められるスキル

出版モデルの設計

- 大手出版社の下で出版すると、知名度が上がる？しかし、東南アジア諸国の読者のアクセスが難しくなるのでは？
- 持続的な運営のためには、安定した外部収入があるのが望ましい？購読料、アクセス料、投稿料…。
- インターネットにアクセスできない読者はどの程度いるのか？図書館はプリント版を希望しているのか？

データベースへの 登録申請

- visibilityを上げるには、データベースへの登録が不可欠。EBSCO、ProQuest、DOAJ…
ほかにもどのようなデータベースを目指すべき？
- 分野の評価を上げるには、指標が必要。Scopus, ESI, SSCI… 申請のタイミングは？手続きは？

知財関連

- 収録に当たっては、英文契約書の対応が必要に…
 - ライセンスの設定はどうする？留意点は？投稿規程をどう変える必要がある？

新しい技術

- DOI, ORCIDなど海外のスタンダードを取り入れないと！
- PDFだけでなく、HTMLの公開も必要！XML編集も取り入れるべき？費用対効果は？
- オルトメトリックスもとりにてみたいが、どうする？
- Googleの検索上位に入りたい
- 電子投稿システムはどれを選ぶ？留意点は？費用はどうする？
- 剽窃ツールはどれを選ぶ？費用はどうする？
- 査読登録サービスを取り入れる？留意点は？費用はどうする？

編集委員会が直面した いろいろな問題

スキルの習得や向上のために望まれる支援

- 学内部署や図書館のサポート

J-STAGEの掲載誌には、学術情報流通に関する情報の入手や各種サービスの利用の機会がある。ただ、人手や予算の問題から、紀要にはJ-STAGEの利用が難しい雑誌もある。編集委員会に、学会誌の編集経験者がいる場合は共有される機会があるが、必ずしも経験者がいるとは限らない。

⇒学内の関係部署(広報や法務)、URA、大学図書館など、専門知識を持つ部署のサポートがあると嬉しい。

Library Publishingのような流れも期待 (cf. 林 2018; 筑木 2009)

- 学術誌の出版に関するテキストやツールの出版

海外では定期的に刊行、公開されている。日本語でもあると有益では

cf. *Sustaining and Enhancing the Scholarly Communications Department: A Comprehensive Guide*. 2022; *The Handbook of Journal Publishing*. 2013.; *New University Press Toolkit*. 2021, etc.

プラットフォームの選択

(英文誌を事例に)

■2012年の創刊時、プラットフォームに求めたこと

- 知名度の向上のために、ブランド力のある海外の大手出版社下での出版や有料プラットフォームの利用を検討
- その一方で、誰一人取り残さないアクセス環境も求めたが、両立が難しかった
→最終的に、自前でウェブサイトを作成することに

その後、

■機関リポジトリへの収録

visibilityの向上に向け収録申請

改めて気づいた魅力：アクセス数を知ることができる、コンテンツの永久保存、一般市民へのアクセスも期待（佐藤 2011）、公開作業をお願いできる、海外DBで検索可能に

■J-STAGEへの収録

DOIの付与に向け収録申請

改めて気づいた魅力：アクセス数、被引用状況を知ることができる、編集に関するセミナーへの参加が可能、電子投稿システムやコンサルティングなどのサービスの享受

機関リポジトリとJ-STAGEの比較

機関リポジトリ

J-STAGE

スキル	図書館に担当いただけるので特に必要ない	印刷会社に入力作業を委託しているので特に必要ない (ただし、確認作業は必要)
コスト	特になし (プラットフォーム利用料は不要)	<ul style="list-style-type: none">■ プラットフォーム利用料は不要■ 印刷会社の代理入力作業への支払い■ 電子投稿システムを使用するなら、別途使用料が必要■ CrossRef DOIを選択するなら、別途利用料が必要 (JaLCOIなら不要)
その他		<ul style="list-style-type: none">■ XML編集を取り入れるなら、それに合わせた原稿整理が必要■ 引用データの登録に当たり、分野の慣例に合わないスタイルの要請もあり戸惑うことがある
委員からの声	<ul style="list-style-type: none">■ やはりIFのついたジャーナルや、大手出版社のブランドは魅力的■ データリポジトリとの連携が欲しい■ DOAJへの収録を目指すべきでは？	

ダイヤモンドOA出版を進める
ために

継続には、インセンティブが欲しい

- アクセス数の増加？
(OAという点で見込めそう)
- 被引用数の増加？
(OAという点で見込めそう)
- 投稿数の増加？
(アジアからの投稿増加は期待できそう！)
- 市民への還元？
(測り方が難しい・・・)



取組自体への評価があるとよいのでは

ジャーナルを評価する際に、IFといった指標だけでなく、ダイヤモンドOA誌であること自体を評価する流れになることを期待

引用文献

- 芳鐘冬樹. 2004. 「科学研究出版の費用分析とビジネスモデル」 カレントアウェアネス (282).
<http://current.ndl.go.jp/ca1543>
- 佐藤 翔; 永井 裕子; 古賀 崇; 三隅 健一; 逸村 裕. 2011. 「機関リポジトリへの登録が論文の被引用数と電子ジャーナルアクセス数に与える影響」 『情報知識学会誌』 21(3). DOI:[10.2964/jsik.21-383](https://doi.org/10.2964/jsik.21-383).
- 下條陽介. 2022. 「ダイヤモンドOA」 第9回学術コミュニケーションセミナー（月刊JPCOAR）発表資料.
<https://doi.org/10.34477/0002000167>.
- 筑木一郎. 「図書館は出版社になる：電子ジャーナル出版支援および大学広報としての京都大学学術情報リポジトリ事業」 『大学図書館研究』 85.
- 林 豊. 2018. 「『次世代リポジトリ』のヴィジョン」 『情報の科学と技術』 68(5). DOI: [10.18919/jkg.68.5_258](https://doi.org/10.18919/jkg.68.5_258).
- Grossmann A and Brembs B. 2021. Current Market Rates for Scholarly Publishing Services [version 1; peer review: awaiting peer review]. F1000Research. DOI: [10.12688/f1000research.27468.1](https://doi.org/10.12688/f1000research.27468.1).
- Jisc. 2021. New University Press toolkit. [New university press toolkit | Jisc](https://www.jisc.ac.uk/info/20000/20000/20000/20000/20000/20000/20000/20000/20000/20000).
- Kris S. Helge, Ahmet Meti Tmava, and Amanda R. Zerangue. 2022. *Sustaining and Enhancing the Scholarly Communications Department: A Comprehensive Guide*. Libraries Unlimited.
- Proudman, Vanessa. 2021. Understanding How Diamond Journals Are Funded And How Sustainable They Are. In *OA Diamond Journals Study. Part 1: Findings* authored by Jeroen Bosman et al. DOI: [10.5281/zenodo.4558704](https://doi.org/10.5281/zenodo.4558704).
- Sally Morris, Ed Barnas, Douglas LaFrenier, and Margaret Reich. 2013. *The Handbook of Journal Publishing*. Cambridge University Press.

ありがとうございました
shitara@cseas.kyoto-u.ac.jp